

平成 29 年度第 3 回川口市文化芸術審議会 会議録

日時 平成 30 年 1 月 24 日（水）午前 10 時～12 時

場所 議会棟第 3 委員会室

出席者 （委員） 原田会長 山口委員 宇田川委員 稲川委員

松本（進）委員 吉田委員 岡村委員 高田委員 伊藤委員 大西委員

齋藤委員 舘松委員 小林委員 松本（幹）委員

（事務局）古澤生涯学習部長 小川生涯学習部次長兼文化財課長 森岡文化推進室
長 片岡室長補佐 桑原主任 保坂主事補

議事録

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

議題（1）「第 2 回文化芸術審議会における意見の対応について」、事務局より説明、了承を得る。

【質疑応答】

特になし。

議題（2）「（仮称）川口市文化芸術審議会基本計画第 4 章 基本目標 1 について」、事務局より説明、了承を得る。

【質疑応答】

（委員）参考資料 2 は資料 1 における対応を踏まえての修正か

（事務局）皆さんの意見を踏まえたうえで、施策の考え方にそれぞれの事業を対応するよう精査した結果、「再掲」となる事業が多いことが確認でき、理解しにくかったことから、分かりやすくなるよう参考資料 2 のとおり修正した。

（委員）アンケート調査等は、通例用紙を置いておく方法で実施していることが多いと思うが、その方法ではニーズの調査が困難である。また回収率も低い。CS 調査（顧客満足度調査）を正確に実施し、様々な意見を聴取するには、分析方法も含め調査方法も検討する必要がある。

（事務局）今回の計画策定においても、市民意識調査と文化芸術参加者・利用者アンケート調査により分析した。今後も基本的な調査は定期的を実施して参りたい。また、今後は、調査方法・分析方法なども研究して参りたい。

（委員）資料 2 の 12 ページの事業の表の中の「研究」と「検討」の文言の違いはなにか。

（事務局）研究は、実施の有無も含めて調査研究するとしたものであり、検討は、その

結果を踏まえ、実現が可能となるよう具体的に検討するものとして文言を使用している。

(委員) 趣味の延長のような形で、例えば音楽活動などをスタートしたい場合、既存の活動団体の窓口が良くわからない。また、文化団体連合会では、芸術祭を開催しており、市からの財政支援を受けているが、個人に対しては情報も財政支援も不足しているように思う。例えば、中央ふれあい館では、館利用団体の入会案内のちらしが掲示板に掲示してあるが、公民館に立ち寄らない市民のために、公民館以外における入会案内一覧などの広報を実施してはどうか。

(事務局) 4 ページの 1-1-②の取組の情報収集発信事業（文化芸術ニュース発行）において、広報誌とは別の文化芸術に特化した情報を発信する方法を新規で検討して参りたい。また、1-1-⑤の取組においても情報の収集のしくみを研究することを踏まえて検討して参りたい。

(委員) 市民からの情報発信をいかにキャッチするかが大事である。

(委員) 市民のニーズの掘り起こしの段階から情報を捉え、整合性を計っていく必要があると思う。

(委員) 情報発信のための広報誌の発行について説明があったが、インターネットを活用した方法が、時勢としても重要である。市はインターネットの発信力が弱いと感じる。インターネットのメリットは、長期間の利用が可能、保存性が高い点、検索などの利便性が高い点などがあるので、積極的な導入を希望する。

(事務局) 4 ページのリード文の最終文に「SNS」による情報発信について明記しているが、現在、情報発信が足りないと認識をしている。ニュースの発行の在り方、インターネットの活用も含めて研究を進めて参りたい。

(委員) 3 ページのリード文に「良質な」音楽とあるが、時代の流れ等で「良質」という観点も変化するものと思われる。「様々な」に変更するのはどうか。

(事務局) 修正する方向で検討して参りたい。

(委員) 4 ページの情報発信の事業について、インターネット等による情報発信も必要と考えるが、紙媒体の広報も必要と考える。長期及び短期それぞれの案内などがあると便利である。また、8 ページでは、「外国人対象」とあるが、敢えて「外国人」と分ける意図は何か。

(事務局) 紙媒体の広報も需要が高いため実施したいと考えるが、インターネットの必要性は益々高まっているため検討していく。ご意見の長期・短期の案内については検討し周知方法を工夫して参りたい。これまで、外国人に配慮した広報などを実施してこなかった経緯から、多言語化を考慮した周知に改善して参りたい。また、6月に改正された

「文化芸術基本法」においても、外国人対象の事業の推進等について新規に条文が追加されていることから、本市における必要性を検討し、追加することとした。

(委員) 多言語化の観点からの事業であれば、「外国人」という表記はそぐわないのではないか。

(事務局) 「外国人」との文言を修正する方向で検討して参りたい。

(委員) 文化振興基金事業について、市民からの寄附金によるものとのことだが、寄附金としては数値が低いと考える。

(委員) 12 ページの「企業との協働」においては、企業が基金に協力しやすいような仕組みづくりが必要であり、支援のための協議会などを作る手段が必要ではないだろうか。

(委員) 9 ページの 1-1-⑤の取組におけるアートギャラリー事業運営の指標は、利用者数と思うが、数値としては低いと思われる。リリアは、利用が多く予約しづらいと聞かすが、リリアの利用率は 77.2%であるから、空いている施設を旨く利用できるようにすれば、練習の場は確保しやすくなるのではないか。また、施設の利用のための広報とシステムの改良を工夫したらどうか。ミニギャラリーの利用率は 82%であるので、本庁舎が使用できる間はもう少し利用できるようにしてほしい。また、その後の方向性は示せるのか。

13 ページの文化芸術振興基金について、企業のメリットを明確にしないと集まらない。NPO法人を設立したが、理事の 9 割が会社経営者であることから、以前、アトリアの開館 1 周年記念のクローデル展を実行委員会形式で実施した際に、法人の働きかけにより寄付金を多く集めることができた。寄付する企業側のメリットとして、具体的な方策を考えてはどうか。

(委員) 寄付を集めやすくするためには、目標も必要である。

(事務局) 13 ページの 1-2-①の取組の基金指標は寄附金額であるが、これまで、事業の広報はしてきたものの数値は伸びていない。まずは目標を立てることからが第一優先と考え、指標としたものである。改めて、基金を集めるための手段を検討するとともに、指標についても精査して参りたい。リード文の該当箇所についても精査する。次に、アートギャラリー事業運営は指標に利用者数を記載していたが、ここでの取組における指標としては、利用率のほうが整合するので、利用率に変更したい。リリアの利用率 77.2%は、文化施設としては高い利用率ではあるものの、使用されていない施設が 2 割あることは事実である。未使用施設について精査して検討していければと考える。練習場であるスタジオは利用率 98%であるが、他の未利用施設について、その周知方法等を考える必要がある。参考に中央ふれあい館は 60%くらいの利用率である。ミニギャラリーは利用できる期間までは利用率を上げるよう工夫に努めて参りたい。基金については、再度の説明となるが、指標の数値も含め検討して参りたい。

(委員) 基金について、企業からお金を集めるためには、明確化した枠組みが必要である。基本とする基金の考え方とは別に枠組を整理したものとして検討することが必要である。

(委員) 財団を設立して運営するのはどうか。

(事務局) これまでは受動的に寄附を待つ姿勢であった。この計画の中には対象を明確に精査し明示して参りたい。

(委員) 経済部で実施している認定制度は、企業にとって広告となりうる。現在、市のホームページにはバナー広告が貼ってあるが、文化芸術に特化したホームページを新設する際にもバナー広告を掲載するなど、また、文化芸術ニュースの発行における広告ページなど、企業におけるメリットを持たせてはどうか。

(事務局) 基金における枠組み等具体策を検討して参りたい。

(委員) リリアのスタジオは狭く、オーケストラが一堂に会して参加することや第九の会 120 名が合唱の練習をすることができない。改修工事をして拡大してほしい。また、メインホールは、三階席から指揮者が見えない。設計上のミスと思うが、使用に支障があるので直してほしい。9ページの、公民館施設運営の事業に関わるが、日曜日は17時までしか利用できない。時間の延長を希望する。

(事務局) 施策6の施設の充実のなかで検討すべきものと考えているが、この計画の中に組みこめない具体的な内容については関係部局に意見として申し伝えたい。

(委員) 企業との協働に係るフレーム作りであるが、市に対する貢献度に応じて、例えば、街中の清掃など実施している企業に対し、その貢献内容により市の公共事務等の契約案件で実施する総合評価方式の要件に加えるなどの制度もある。

(委員) 11ページの「現状と課題」であるが、鋳物・植木等産業は市として保存・継承できるものとの考えなのか。

(事務局) 鋳物産業・植木産業ともに、川口の産業観光資源の面で重要なものであり、文化芸術の計画を策定するにあたっては欠かせない視点と考えている。

(委員) ホームページを新設し運営していただくだけでもコストもかかり、職員の負担は大きいものとする。SNSを活用して負担を最小限に、短い文章に写真を添えるなどにより周知を図る方法はどうか。アーティスト発掘支援事業においても、アーティストの紹介など、負担なくこま目に発信してもらえたらと考える。マクドナルドハウスという、子供の入院中、保護者の夜間付き添いが必要な場合、近隣で宿泊できる施設をマクドナルドが社会貢献の一環として整備しており、寄付金やボランティアも集まる仕組みとなっている。企業側も継続的に支援しやすい仕組みづくりが重要と考える。

(事務局) アトリアには単独のホームページがあり、ブログ・フェイスブックを行って
いる。しかし、反響は低く、まだ周知は不足している。情報発信の新手として計画の中
にこれらの SNS の活用手段を研究して参りたい。

企業との協働については、事業内容や指標について再度精査して参りたい。

議題 (3) 「(仮称) 川口市文化芸術審議会基本計画第 4 章 基本目標 2 について」、事務
局より説明、了承を得る。

【質疑応答】

(委員) 5 ページの新鋭作家展について、出品作家のその後の交流・支援はどのようか。
市内の文化芸術の振興に対する寄与度はどの程度だろうか。

(事務局) 今年度で 7 回を終了したが、公募の優秀者 2 名は、1 年をかけて新作を準備
し新鋭作家展として展示することが可能である。また、交流等について、アトリア企画
のワークショップの講師としてなど活躍している。

(委員) 5 ページのリード文について、市内に若手を「呼び込む」と記載されているが、
「呼び込む」となると限定されてしまう恐れがある。また、元々の、市内の芸術家への
支援はないのか、というような考え方が存在する。また、若手の支援としては、1 年をか
けての支援というより、3 年後・5 年後の間隔等で定期的な発表の場があることが必要で
ある。市へ貢献ができるようなシステムに作り上げることが有効である。

(事務局) 「呼び込む」との文言は理解しにくいので訂正する。この事業では、市内の若
手の芸術家を何らかの形で支援するものであるので、事業概要・改善の方向性ともに検
討して参りたい。

(委員) かわぐち音楽の日事業の一環として、小さい子どもを対象に体験として指導し
た。このような事業は継続して実施してほしい。また、初午太鼓コンクールや郷土芸能
など関係団体から財政支援がある。企業の協賛金などは、自ら足を運んで調整している
のが実情である。

(委員) 新鋭作家展について、市美術展と連携することはどうか。

(委員) 新鋭作家展は現代アートの発表の場であり、連携は困難な点があるが、積極的
に検討してほしい。

(委員) 大人になって美術館を訪ねるリピーターは、幼少のころ親に連れられ来館しイ
ンพุットされリピーターとなることが多い。学校教育の場が影響する傾向は低い。新鋭
作家展は、年々小さく感じるので根本的な検討が必要ではないか。

(事務局) 新鋭作家展については、アトリアの事業における位置付けも含め、事業を精

査して参りたい。

(委員) アトリアで保存している寄贈を受けた資料はどの程度あるか。

(事務局) アトリアは、美術館類似施設と呼ばれるもので収蔵室は整備されていない施設であり、寄贈は受けていない。現在、市への美術品の寄贈は文化推進室で受け入れている。

(委員) 活動助成金について、鼓笛隊は小学校でどれくらいの数があるか、実績はどのようであるか。また、吹奏楽は多いが合唱は少ない。合唱にも力を入れてほしい。

(事務局) 合唱に係る活動助成金は現在予定していないが、そのほかについては関係部署に確認し、該当するものを掲げている。再度、関係部署に確認し、報告する。

議題(4)「その他について」、質疑を得る。

【質疑応答】

(委員) 次回、クローデル展について、企業の協賛のことなど説明をお願いします。

(委員) 了承。

(事務局) 1ページに掲載のとおり、旧田中家住宅は通常は5千人程度の入場者であるが、クローデル展では、入場者数は1万4千人程で過去最高の入場者となった。

(委員) 青少年ピアノコンクールは、若手アーティスト育成の基盤となりえる。継続して実施を希望する。

(事務局) 継続して実施できるよう進めて参りたい。

4 閉会